

(4) 参加型学習を適切に指導するための職員研修

参加型学習を適切に指導するための職員研修として、以下のような研修を行い、参加者の感想を3つの側面から分類してみました。

ア 授業で活用できる参加型学習の体験

人権についてのイメージを育てる活動

1 テーマ 人権を絵に描く

2 目的と概要

小グループに分かれ、1人が世界人権宣言に定める権利を絵で描き、他のメンバーは、その絵がどの権利を表したものであるかを当てるゲームを行う。言葉で示された人権の内容について、イメージをふくらませ、創造的に描画するもので、次のような目的をもつ。

- 世界人権宣言についての知識を発展させること
- チーム形成の力と創造的思考及びイメージの使い方についての自覚を発展させること
- 連帯と多様性への尊重を促進すること

3 準備するもの

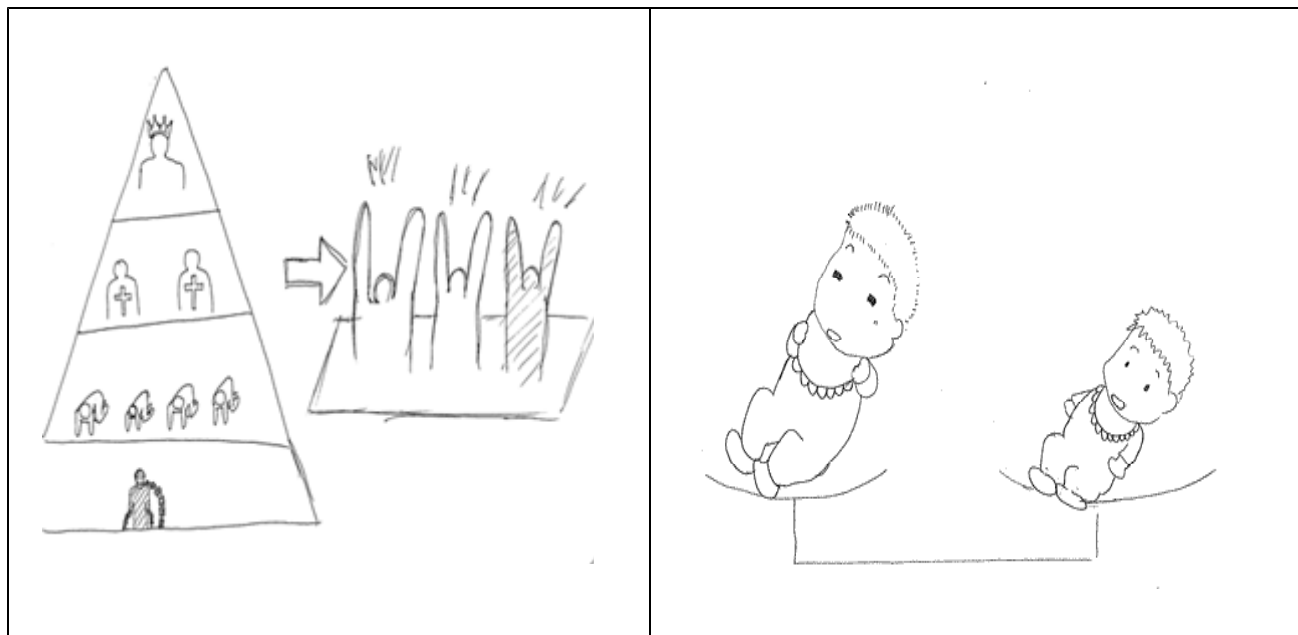
- ・世界人権宣言の条項文（または簡単に要約したもの）
- ・人権のイメージを絵に描くためのA4用紙（一人一枚）
- ・くじ（各条項の番号を書いたもの…グループの人数分）

4 進め方

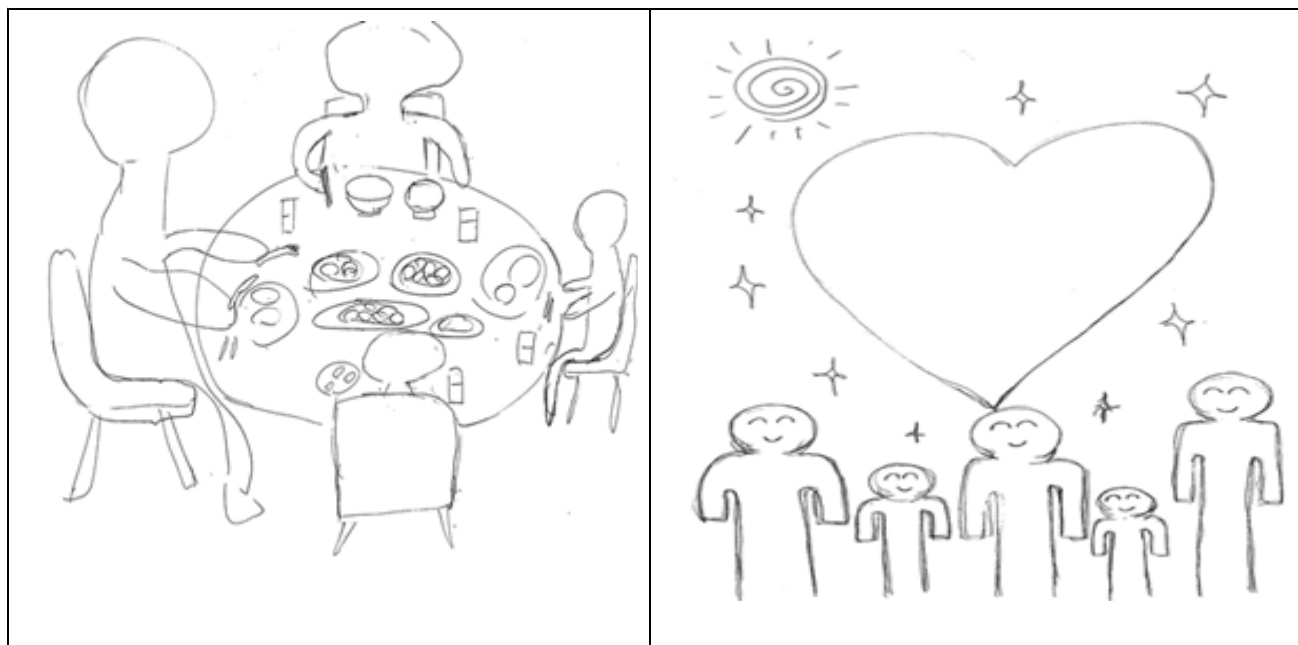
- ① グループを作る（4、5人）。
 - ② 一人一枚ずつくじをひく。
 - ③ メンバーは、それぞれのくじに示された権利を絵に描く。絵にはイメージを描くだけで、数字や言葉は一切描いてはいけない。
 - ④ 全員が描き終わったら、他のメンバーが描いた絵がどの権利を表しているかを解答する。
 - ⑤ 正解が出たら、次のメンバーの絵について解答し、全員の絵について解答する。
 - ⑥ 最後に、それぞれ違う権利について人々がどのように異なる解釈やイメージをするかを比較したり、議論したりするために、各グループで描かれた絵を条項ごとにまとめて黒板などに展示する。
 - ⑦ 描かれた絵を比較し、解釈やイメージのしかたの違いや人権の意味について話し合う。
- 文部科学省 『人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕～実践編～』 平成20年3月 p.29を参考にして作成

参加者が描いた「権利」のイメージ画

(第1条 平等の権利)



(第3条 自由に、安心して生きる権利)



(第19条 意見と情報の権利)



(第25条 十分な生活水準を保持する権利)



知識的側面に関する感想

- 学べば学ぶほど、人権教育の重要性を感じている。より多くの教員に広がっていきよう自分もこつこつと積み重ねていきたい。
- 同じ絵を見ていても、様々な考えがあることを活動を通して実感できた。「世界人権宣言」もただ読むだけではなかなか理解できないと思うが、絵に描くことで、じっくり読み、意味を考えようとするので、印象に残ると思う。
- 自分が持っていた「平等」のイメージが、人によって異なることに気付くことができた。
- 知識的側面での学びについては、今まで考えたことがなかったが、その大切さが分かった。振り返りや全体での交流の場でも多様なものの見方、考え方にふれることができ、有意義な時間だった。
- 人権について自分自身が知識的側面を深いものにしていくことが、子どもたちに教え、一緒に考えて共に成長していくことにつながると思う。
- 抽象的な内容の法律などを具体的なイメージとして絵などに変換してとらえやすくすれば、理解が深まるということが分かった。また、相手のことを理解するに際して、情報の量が多ければ多いほど、理解が深まるということを実感した。

(考察)

読むだけでは理解が難しい条文も、参加型学習を通して内容を理解できていることが分かります。言葉だけの表現ではなく、絵でも表すことで、言語外のイメージも深めることができている。より具体的にとらえることができたと感じた参加者もいました。



価値的・態度的側面に関する感想

- このような人権教育の研修は、大人になった今も毎回新しい視点を得ることができる。このように新しい見方や新しい発想の転換ができるのがありがたい。子供たちや職員同士ですぐに還元していけそうな内容だった。
- 活動を通して人とつながることで、自己イメージが高まる体験ができた。その体験により、グループでお互いを受容する雰囲気が出てきたので、後の活動で個性のある解釈、意見を聞くことができた。
- 他の参加者の発言に、「なるほど」と思い、あらためて参加型学習の良さを感じた。
- 人権教育は教育活動全体に関わってくるものなので、実践を重ねていくうちに人間関係づくりにじわじわとつながっていくものであることも分かった。
- 一言で言うと、「今まで知らなかったことを知ることができた、今まで考えたことがなかったことを考えることができた」である。
- たくさんの人の話を引き出す、雰囲気を作り出すことの大切さを感じた。また、「多様性」を考えることもできた。
- 人権ということについてじっくり考えることができたことは、これからの教育活動の基本・土台としての人権教育をしっかりと進めていきたいという思いにつながった。
- 参加型の良さを十分に生かせずに授業を展開していることが多かったが、今回の研修を通して、参加型学習のイメージがしっかり身に付いてきたような感覚が備わった。学校はアクティブ・ラーニングが求められ、常にファシリテーター的な役割を感じながらの現場である。参加者のニーズに合わせた内容をプランニングしてもらい、感謝している。
- 「人権」というと難しいイメージがあったが、多様な人がいて、多様な考えがあっというところから始めたいと思う。
- いろいろな人と話をすると（互いのことを知ると）学びが広がり深まるということを改めて実感した。そのためには、やはり、多様な生き方を知ることができる豊かな人間関係が必要だと思った。

○グループで意見を出し合い、語り合うことで、だんだん温かい雰囲気になっていった。同じことが子どもたちにも言えるのだと思う。安心して自分の考えが言える、受けとめてもらえるという思いをもつことは、今の子どもたちにとっても大切なことだと思う。様々な表現の仕方（強い言葉を出す、自分の思いを語らない、無関心をよそおう など）をしている子どもたちに、このような取組を積み重ねて仲間づくりをしていきたいと思った。

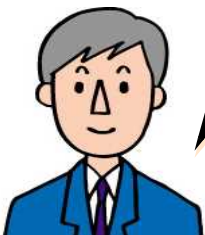
○参加型学習を実際に行うことで、内容や手順を理解できただけでなく、気持ちや価値についても考えることができた。他者の考えを聞くことで、別の見方ができることにも気づき、視野を広げることや知識を深めることの大切さを感じた。

○参加型学習の良さに気付くことができた。アクティビティを活用すれば、子どもたちはもっと意欲的に授業に取り組めるのではないか。何より授業者がより楽しく進めることができると感じた。

○参加型学習はあまり取り入れたことがなかったが、今回体験してみて、教師がすべて主体的に展開していくのではなく、児童生徒に任せる時間を毎回入れられるようにしたいと思った。また、ファシリテーターの考えは、教師にとってとても必要な能力であると感じたので、今回の学びを忘れず心がけていきたい。

(考察)

他者との交流の中で、お互いの意見を尊重し合う体験が、自他の人権を尊重するということと重なっているようです。また、多様な考え方を出し合う中で、様々な見方を認め合うことの豊かさを感じ取ることでできた参加者もいました。

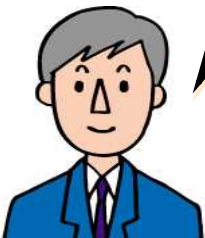


技能的側面に関する感想

- 参加型ということで、子ども側の視点に立って活動できたのがよかった。自分では気が付かなかった様々な物事の見方を、意見交換をすることで知ることができ、知識の幅を広げることができたように思う。
- 絵を描いたり、解釈をしたりすることによって、自分の心の奥にあるものが表面化したり、表現したりすることにつながった。
- 安心して過ごすことができる、話ができる、ということは、自分らしさを表現できるとても重要なキーワードであることを、再確認できた。

(考察)

意見交換をすることで、他者の考えを理解しようとするコミュニケーション技能や相違を認めて受容できるための技能などが高まった様子が分かります。また、複数の情報を分析することで、自分の考えを明らかにできた参加者もいました。



イ 視聴覚教材を活用した職員研修

- ・講話（基本的な知識・考え方）
- ・人権課題に関するビデオ視聴
「あなたに伝えたいこと」兵庫県人権啓発協会 2014年
- ・感想交流、まとめ

知識的側面に関する感想

- 講話とDVDがずっと頭の中に入ってきた。とても分かりやすくとても共感できた。大切なことは予断と偏見をもたず自分の目で見て、自分の頭で考え、本物（本人）と会って話すことだと思った。
- 人権侵害を受けた時に、法的、公的に頼れるもの、人、機関を知っておくことは重要だと思う。ここに教育の大切さがあると思った。
- 自分は差別しない、していないけれども、周囲の差別を見逃す、指摘しないのであれば、差別に加担しているのと同じだと思う。「知る」ことで偏見を減らしていきたい。
- 自分自身が正しい知識をもって、偏見や差別を許さない気持ちを強くもつことが大切だと思う。さらに、ただ思うだけでなく、くだらない偏見をもつ人がいたら、DVDに出てきた人のように、それを諭す人間になりたいと思う。

（考察）

市販されているビデオ教材は、実践的知識を伝える工夫がなされているので、参加者の思考も広がりやすかったようです。さらに、同じ教材を視聴後、感想交流を行うことで、教材の中に示された情報について、より詳しく捉えることができている様子が見えかけました。



価値的・態度的側面に関する感想

- 「思い込み」って怖いものだと感じた。小さい頃からの価値観（決めつけ）が古くなって、今に続いているものの中で、実は正しくないものの見方が、自分の中にかなりありそうだった。
- 人権感覚をもつことが大事であることは頭では理解していても、言動が伴っていないと何の意味もないこと、常に自分の言動を第三者の立場（客観的な立場）から、振り返ることの重要性を感じた。
- 他人事に捉えてしまうことが、噂や偏見に惑わされてしまい、ありもしない偏見を気にして、わけのわからない噂に負けてしまうことにもつながりかねないと思った。
- おかしいことを「おかしい」と言える人間になることは簡単ではない。しかし、言うことから始めないと何も変わらない。気付いたら一歩進んでいく勇気をもつことも大切だと思った。差別は未来に残してはならないと感じた。
- 最近の内容を含んだDVDで多くの人にみてもらいたいと思えるものだった。研修ではやはり題材と教材が重要で、最も適するものを選ぶことが大切だが、自分自身の勉強不足でどんな教材があるのかをあまり知らないことを反省させられた。時間を確保して多くの教材を実際に自分の目で確かめていつでも活用できるようにしなくてはと考えた。また参加者が自分を少しでもさらけ出すことができる研修が大切であると実感した。
- このネット社会において正しい情報収集が必要でおかしな情報は削除しないといけない。生徒たちが大人になったときにそれができる人になれるように育てたいと思う。

（考察）

教材の内容理解が深められたことで、更に学習を重ねたいという意欲につながったようです。時間確保が難しい中でも、やってみたいという意欲が湧いたという声も、たくさん聞かれました。



技能的側面に関する感想

- 自分を語ることもとても意味があることだと思う。→何を語るのかを考えて…研修ビデオはとてもよいビデオでいつか研修で使いたいと思った。
- 研修の際、自分の考えを述べる場があり、それを肯定的に受け止めてもらうのが大切だと思った。



(考察)

自分の考えを肯定的に受け止めてもらう体験を通して、その大切さと効果が理解できていたようです。また、相手に自己開示をされると、自分の心も開くという感覚をもった参加者もいました。

どの側面にも関連する感想

○近々、職員研修を担当することになっているので非常にタイムリーだった。今日のような流れで研修内容を組み立てて行きたいと思う。これまで受けてきた研修には50～60分を丸々ビデオ視聴に充てているものもあり「形ばかりで無意味」だと思っていたが、本日のような短いビデオを見た上で意見交流するのもいいなあと考え直すことができた。基本を押さえビデオを見て意見交流することで参加者の認識を新たにするような研修にしたいと思う。

○今回の研修をそっくりそのまま実施し広めていきたい。DVDの内容も現実的な課題がたくさん含まれていて自分がどの立場に立って見るかで感想もいろいろ出るだろうし、自分のこととして捉えることのできる研修で内容も深まると思う。やはり、正しく知ることで相手の人権を尊重することもできるし、相手を大切にしたいという思いが正しく知りたいという強い思いにつながると思う。

○研修会の作り方として、どう自分のこととして考えさせるのか学習になった。

○人権啓発のDVDを利用した研修は多くの学校で行っていることだと思うが、それにプラス感想交流をいれることによって内容は深まるものであるということに改めて気付くことができた。また研修会を行う立場になった場合でも、講話の中で触れられたように、意外と誰でもその企画でできるのではないかと思った。先生方の中には職員研修の講師や内容で悩んでおられることが多いので、こういう研修もあるということを是非紹介したいと思った。

○このDVDをつかって授業をやってみたいと思った。生徒たちも表面的には「差別をしてはいけない」と言うが本当に理解しているのだろうか？もし自分だったらどうするのか？この話を通してしっかり考えさせたいと思う。

(考察)

参加者としてだけでなく、指導者としての感想は、3つの側面それぞれに押さえたいところを意識するものが多くありました。指導者が一方的に話すだけでなく、視聴覚教材を使うことや、参加者（児童生徒）の考えも引き出しながら行うということで、授業づくりへの意欲も高まっていることがうかがえます。

